

令和6年度第1回平塚市市民活動推進委員会 議事録

日 時 令和6年4月26日（金）午後2時から午後4時00分まで
場 所 ひらつか市民活動センター 会議室A・B
出席者 辻委員、能勢委員、市川委員、池谷委員、中野委員、西畑委員、松田委員、和久井委員、事務局
傍聴者 なし

1. 令和6年度の委員会の予定

令和6年度の会議の予定等について、事務局から説明した。

2. 令和5年度市民活動センター利用状況、事業実施報告

令和5年度市民活動センター利用状況、事業実施報告について、事務局から報告した。

〔委員からの意見・質問等〕

- 〈委員長〉：「ひらつかの風」（ひらつか市民活動センター情報紙）の制作に携わってくれた学生は、近隣の学生なのか。
- 〈事務局〉：その通りだ。平塚に在住で、都内や県内へ通学している学生。
- 〈委員長〉：参加した学生は、ボランティアに馴染みのある方だったのか。
- 〈事務局〉：積極的な方が2名いた。
- 〈委員〉：若い人への募集はどのようにやったのか。
- 〈事務局〉：SNSで行ったが、人との繋がりでの募集をした。
- 〈委員〉：自分たちも若い人へ声をかけたいが、繋がりでの集めている状況だ。
- 〈事務局〉：公募で募集するのは、若い人にとってもハードルが高くなる。誰かの後ろ盾があると参加しやすい。
- 〈委員〉：鎌倉では、コロナ禍で大学のサークル活動ができない学生が市民活動団体を創ることがあった。現在活動している団体は3団体になってしまったが、活動を続けてくれている。そのような団体を通して若い人に繋がりを持っている。平塚では若い人の団体はないのか。
- 〈事務局〉：市民活動団体の形にはなっていないが、市民活動センターに集まっている若い人を通して、ほかの若い人と繋がりを作っている。
- 〈委員〉：専門相談の中に会計税務相談が23件となっているが、これは例年これくらいの件数なのか。
- 〈事務局〉：NPO法人になったばかりの団体の相談があったので、今年は多くなった。
- 〈委員〉：インボイスの影響はあったのか。
- 〈事務局〉：講座をやるほどは集まらないので、個別に相談を受けている。
- 〈委員〉：パートナーシップミーティングは今回が初めてか？
- 〈事務局〉：以前に1度やったことがある。
- 〈委員長〉：市職員は講習会などに参加しているのか。
- 〈事務局〉：センター主催講習会等は、時間があれば市職員も参加している状況である。
- 〈委員長〉：税務や協働事業などのルーチンの作業については、プラットフォーム化するのはどうか。
- 〈事務局〉：団体支援する中で、事務を委託する場合もあるが、会員自身が団体運営を行っていくなかで、事務を自力でおこなっていくことは団体が成長していくためには、必要なことであると捉えている。

3. 令和6年度市民活動センター事業計画

令和6年度市民活動センター事業計画について、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：「ひらつかの空」（ボランティア情報紙）を改めるとは。

〈事務局〉：若者に取材してもらっているが、若者を集めるのが難しい状況であるため、今年度は、昨年度作った「ひらつかの空」を引き続き使用していく。

4. 令和7年度提案型協働事業スケジュール

令和7年度提案型協働事業スケジュールについて、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：事前の相談は現時点であるのか。

〈事務局〉：可能性がある提案が1件、検討中の提案が数件ある。

〈委員長〉：スケジュールは昨年と変更はないのか。

〈事務局〉：令和7年度については、募集期間を長くとっているため、変更している。

〈事務局〉：今年度は実施する協働事業が無い。制度がいけないのか、協働事業の考え方がいけないのか担当で検討している。鎌倉や茅ヶ崎の関係者の委員もいらっしやるので、検討していくための助言をいただきたい。

〈委員〉：茅ヶ崎市では実質協働事業制度がない状況。せめて、団体との顔合わせをして行きたいため、行政に働きかけをしている。そこから先に進まない状況である。

〈委員〉：鎌倉市は、行政提案型は年々減少している。単年度で終わってしまうのが課題であったので、継続3年までできるように制度変更した。1年度に1団体として、同時並行で最大3団体となっている。

行政が本当に悩んでいることが見えづらいので、各部署の事務担当者が抱く悩み事などを行政担当課がアンケートを実施して調べた。結果を見ていると市民活動団体とできそうなことも出てきているので、繋がれる。

〈委員長〉：行政の悩み事や困りごとを調べることは、良いヒントになるかもしれない。

〈委員〉：協働というのがそもそも何なのかの理解を行政や市民活動団体が深めることが大事である。

〈委員〉：1つの市民活動団体で行政と協働事業をやるのは難しい。今、複数のIT支援団体が、協力して市民のデジタル活用推進に取り組んでいこうと話し合いを始めたところで、将来的には行政への提案を目指している。新規にできた団体にヒアリングすると、活動が中心でメンバーを増やすところまで至っていない。行政はサポートセンターには事務的な支援をしてもらいたい。平塚市の協働事業制度は事務的書類の作成が多い。

〈委員〉：まち活と都市整備課との活動をしている。都市整備課から補助金をもらっているが、運営費としてもらっている。年度初めに補助金を頂いて、年度末に精算をしている。活動に都市整備課が参加してくれ、事務についても担ってもらっている。事業の分担をするのではなく、一緒にやっていくことが必要なのではないか。行政提案型の締め切りが2月となっているが、人事異動等で提案しにくいのではないか。

〈委員長〉：なぜ行政提案型は2月となっているのか。

〈事務局〉：4月に市民活動団体を募集するにあたって、庁内での調整を3月中までに終わらせる必要があるため、提案を2月中までとなっている。

〈委員長〉：担当者が異動などで、提案の事業がなくなってしまうことがあるのか。

〈事務局〉：課長レベルでの判断となるため、市として数年先を考えて動いているため、担当者が変わったことで、提案事業がなくなってしまうことはない。

〈委員〉：市民活動団体からの協働事業の受付を随時してみたら、もっといろいろな提案が上がってくるのではないかと思う。市のスケジュールに合わせないといけないという、市民活動団体からすると難しい部分もあるのかと思う。年2回

か3回の相談・受付のサイクルの中で市のスケジュールに合わせていく制度にしていくことができるのであれば良いかと思う。

〈委員長〉：今の発言は確かに本質的なところである。

〈事務局〉：市民活動団体の立場では、コロナ禍が過ぎて、時間が空いてしまったため、協働事業制度というよりも、協働とはどういうことなのかの理解が必要と考えている。NPOの先駆的な取り組みとして協働事業は必要で、行政が手に届かない取り組みになる。ただし、市民活動団体から、事務量が多いという声がある。協働事業に関する理解をお互いに深める機会を設ける必要はあると考えている。

〈委員長〉：今、協働事業の理解を深めるような取り組みをしているのか。

〈事務局〉：NPOと市職員が合同で研修をしている。

〈事務局〉：団体は団体、職員は職員でそれぞれ忌憚のない発言ができる研修があると良いと考えている。

〈委員〉：茅ヶ崎市市民自治推進課が職員にアンケートを実施した。各職員の悩みなどもあり、協働のアイデアも職員自身は持っているが、それがすぐに形にならないという状況である。小さい声を拾って、それを協働推進課で形にしていくようなことを試みてはどうか。

〈委員〉：今やっている事業を市とやることで、負担金がもらえるから一緒にやってみたいと思うが、どこの部署がそれを担当しているのかわからない。プレゼンしてダメになることもある。やりたいけれど、先の不安がすごくある。膨大な資料の準備、プレゼンの準備、どこの課と組めるのかという悩みがあると聞いている。このような不安をなくすような講座をやっていただきたい。

〈委員〉：どこのところが採択・不採択の基準となるのかある程度の基準が見えると事業提案に向けて取り組みやすくなると思う。

5. 令和6年度平塚市市民活動推進補助金審査結果

令和6年度平塚市市民活動推進補助金審査結果について、事務局から報告した。

6. 令和5年度平塚市協働のまちづくり基金及び寄附状況報告

令和5年度平塚市協働のまちづくり基金及び寄附状況報告について事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：去年に比べて寄附金額が減っているのは企業からの大口寄附が原因か。

〈事務局〉：その通りだ。

〈委員長〉：企業からの寄附は厳しい状況か。

〈事務局〉：年度末にまちづくり事例表彰された企業に声をかけている。

〈委員長〉：基本的には公募してもらったところか

〈事務局〉：基本的には面会の約束が取れる企業や市民活動に興味・関心のある企業へ伺っている。

〈委員長〉：寄附してもらった企業はどこかに掲載などされるのか。

〈事務局〉：10万円以上の寄附で、市長からの感謝状があり、「ひらつかの風」に写真と記事を掲載している。

7. 平塚市みんなのまちづくり事例表彰について

平塚市みんなのまちづくり事例表彰について、事務局から説明した。

〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉：2月の表彰式はどうだったのか

〈事務局〉：農商高校の生徒も参加されて華やかにできた。

〈委員長〉：応募が減っているわけではない。去年と同じ事業内容で応募してもよいのか。

〈事務局〉：その通りだ。

〈委員長〉：選考基準があるが、選考するのは難しいとの意見がある。2か月前倒しするということは8月からの募集ということでよいのか。

〈事務局〉：その通りだ。

8. その他

第2回委員会について、令和6年7月12日（金）に開催予定であることを事務局から報告した。

閉会